

茨城工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	情報リテラシー
科目基礎情報						
科目番号	0002		科目区分		専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科	国際創造工学科 情報系		対象学年		1	
開設期	前期		週時間数		2	
教科書/教材	教科書：岡本敏雄他「情報の科学」（実教出版）、岡本敏雄他「高校社会と情報」（実教出版）、必要に応じてプリントを配布する					
担当教員	松崎 周一,小飼 敬					
到達目標						
1. 情報を収集, 処理, 発信するためのコンピュータハードウェアとソフトウェアに関する基礎知識を理解し説明できる。 2. インターネットの仕組みと利用方法ならびに情報社会における脅威とその対策について理解し説明できる。 3. データ構造とアルゴリズムに関する基礎知識を理解し説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	情報を収集, 処理, 発信するためのコンピュータハードウェアとソフトウェアに関する基礎知識を理解し説明できると共に、実際のコンピュータでこれらの基礎知識を活用できる。		情報を収集, 処理, 発信するためのコンピュータハードウェアとソフトウェアに関する基礎知識を理解し説明できる。		情報を収集, 処理, 発信するためのコンピュータハードウェアとソフトウェアに関する基礎知識を説明できない。	
評価項目2	インターネットの仕組みと利用方法ならびに情報社会における脅威とその対策について理解し説明できると共に、インターネットを活用でき、かつ、情報社会における脅威とその対策に配慮した情報の保護ができる。		インターネットの仕組みと利用方法ならびに情報社会における脅威とその対策について理解し説明できる。		インターネットの仕組みと利用方法ならびに情報社会における脅威とその対策について説明でない。	
評価項目3	データ構造とアルゴリズムに関する基礎知識を理解し説明できると共に、特定の課題に対して適用できる。		データ構造とアルゴリズムに関する基礎知識を理解し説明できる。		データ構造とアルゴリズムに関する基礎知識を説明でない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (A)						
教育方法等						
概要	演習を通して、メールやインターネット利用のための情報リテラシー、コンピュータハードウェアとソフトウェアの基礎および代表的なアルゴリズムの知識を学ぶ。					
授業の進め方・方法	パソコンやインターネットを目的に応じて適切に使えるようになることは、これからの工学分野を学んでいく上で非常に重要です。講義・演習を通して学んだことは、今後必要なときに見られるようノートにまとめておいてください。プログラムなどの演習は、あとで自分でもう一度つくってみたり、工夫して少し違うものをつくってみるとより理解が深まります。					
注意点	この授業では、自分のコンピュータを毎回使用します。忘れずに持ってきて下さい。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オフィスソフト, 電子メール		オフィスソフト, 電子メールの導入、電子メールの利用方法、文書作成ソフトの導入と使い方	
		2週	表計算ソフト		表計算ソフトの導入と使い方	
		3週	情報社会		著作権、個人情報とプライバシー保護	
		4週	インターネット (1)		インターネットの仕組み、プロトコル	
		5週	インターネット (2)		インターネットのサービス、電子メールによる情報伝達システムの仕組み、インターネットを用いた犯罪例と対処	
		6週	インターネット (3)		World Wide Webの仕組み、TCP/IP各層の役割	
		7週	情報セキュリティ (1)		情報セキュリティの必要性、個人による安全対策	
		8週	情報セキュリティ (2)		暗号化の仕組み	
	2ndQ	9週	情報とコンピュータ (1)		論理演算、進数変換	
		10週	情報とコンピュータ (2)		ハードウェアとソフトウェア	
		11週	アルゴリズムとプログラム (1)		表計算ソフトを用いたコンピュータにおける初歩的な演算	
		12週	アルゴリズムとプログラム (2)		フローチャートの考え方と書き方	
		13週	アルゴリズムとプログラム (3)		データの型とデータ構造	
		14週	アルゴリズムとプログラム (4)		基本的な数値計算のアルゴリズム	
		15週	文書作成ソフト		文書作成ソフトでのレポート作成	
		16週	総復習		全体のまとめ、学生からの質問に答える	
評価割合						
	レポート・課題		試験		合計	
総合評価割合	100		0		100	
基礎的能力	50		0		50	
専門的能力	20		0		20	
分野横断的能力	30		0		30	